

岩手県の自然立地条件と畑地干ばつ地帯区分

(農試 環境部・県北分場)

1 背景とねらい

岩手県における畑地かんがいの効果及び事業の進め方について昭和60年～62年に関係機関（行政及び研究）において検討を行い、「岩手県における畑地かんがいの推進について」（農計385号、平成元年3月31日付け）としてとりまとめられた。この検討の前提となった岩手県の自然立地条件についての解析結果は、「岩手県における畑地かんがいの推進について」の裏付け資料にとどまらず、今後の畑地かんがい事業計画、あるいは畑地干ばつの発生予測とその現地対応についても参考になると考えられるので、指導上の参考に供したい。

2 技術内容

(1) 気象の特徴と地帯区分

ア 土壌水分に及ぼす気象特性

岩手県においては平年的な降水分布であれば、露地作物が水不足となる危険性は小さいと考えられる。しかし、気象要因の中において降水量や日照時間は変動の大きい因子であり、また畑地かんがいの効果は作物の種類や生育時期によっても大きく変動することから、降雨の平年値などから単純に畑地かんがい効果を評価することはできない。

イ 降水量・降水分布による気象地帯区分（図1）

地帯区分	暖候期の降水量・分布の特徴
I. 県北内陸	暖候期降水量が、最も少ない。夏期降水量は沿岸北部よりやや多い。
II. 北部沿岸	春期、夏期の降水量は県北内陸地帯と同水準。秋期の降水量が多い。
III. 県南内陸	平均的降水量である。8月下旬に降水量が少なくなる。
IV. 県央	平均的な降水量である。降水分布も平均的である。
V. 南部沿岸	暖候期降水量が多い。奥羽山系沿い比べ、夏期より春・秋期降水量が多い。
VI. 奥羽山系	暖候期を通して降水量が多い。夏期の降水量が最も多い。

(2) 土壌の特徴と地帯区分（図2）

地帯区分	代 表 土 壌	土 壌 の 特 徴
第I地帯	風積性火山灰土壌	有効土層が深い。透水性が良い。保水性が高い。
第II地帯	黒ボク土・褐色森林土	有効土層が浅い。下層は砂礫層。
第III地帯	褐色森林土・褐色低地土	有効土層が浅い。透水性が悪い（下層重粘）。
第IV地帯	褐色森林土	有効土層が浅い。透水性が良い。保水性が低い。

(3) 干ばつ地帯区分と干ばつ発生（図3）

地 域 名	地 域 の 気 象・土 壌 の 特 徴 と 共 通 点
軽米・久慈・岩泉地域	降水量が少ない。連続干天出現頻度が高い。表層火山灰で易有効水分が多い。
二戸・岩手地域	降水量が少ない。4、5月の連続干天出現頻度が高い。有効土層が深い。
盛岡・紫波地域	降水量は並。連続干天出現も並。土壌の易有効水分含量が多い。
花巻・水沢・北上・江刺 一関・遠野地域	降水量は並。夏期の連続干天の出現頻度が高い。有効土層浅い。
宮古・釜石・大船渡 千厩地域	降水量は並。夏期の連続干天の出現頻度が高い。有効土層浅い。

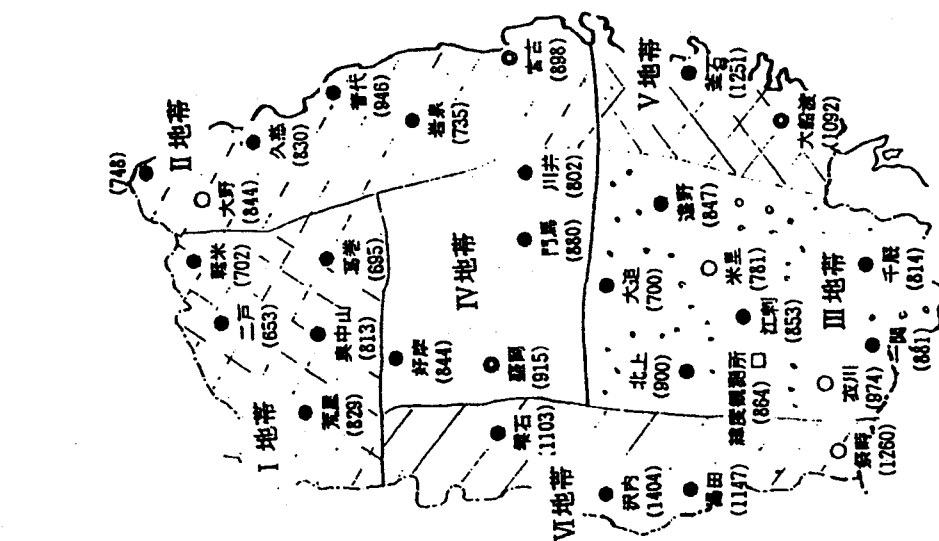


図1 暖候期降水量と降水パターンから見た地帯区分
(数値：暖候期<4~10月>の総降水量(mm))

I 地帯＝県北内陸地帯、II 地帯＝北部沿岸地帯
 III 地帯＝県南内陸地帯、IV 地帯＝県央地帯
 V 地帯＝南部沿岸地帯、VI 地帯＝奥羽山系地帯

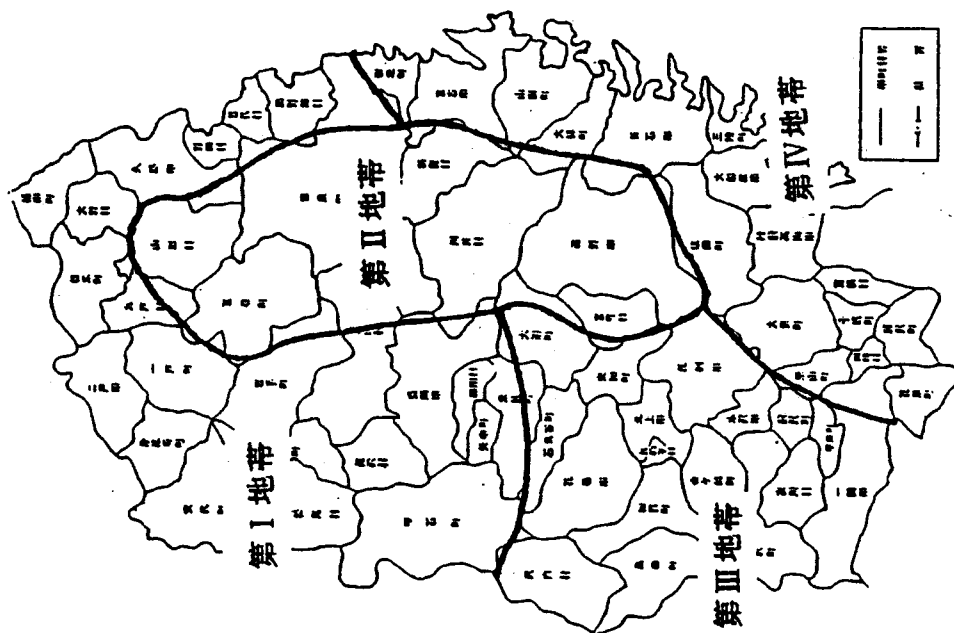


図2 土壌分布による地帯区分

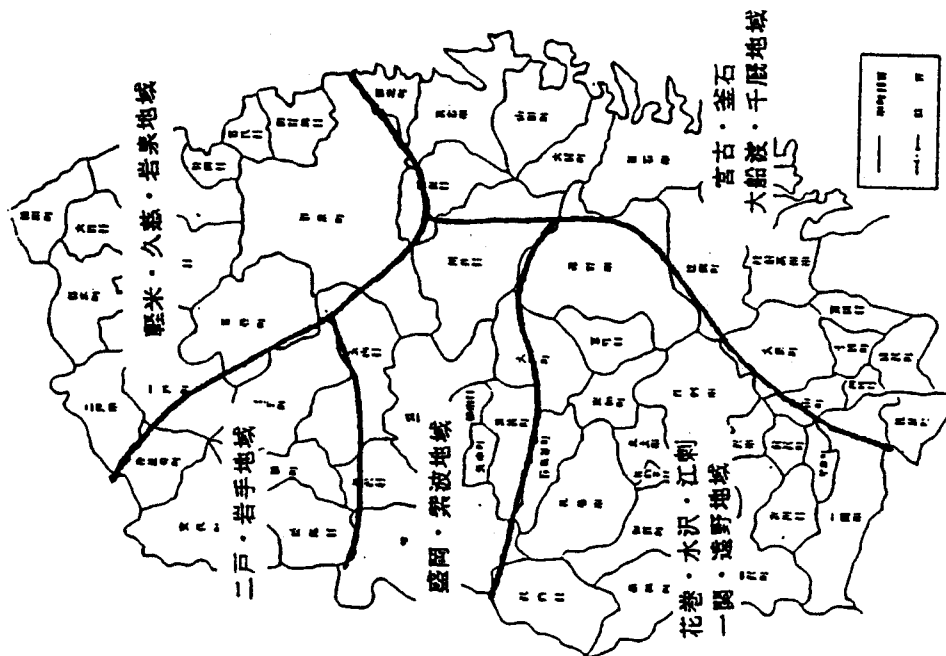


図3 火災危険地帯区分